

高橋広平写真展

神の鳥・雷鳥のいま

同時展示

氷の蝶

ミヤマシロチョウ

入場
無料

令和元年

11月30日(土)～12月15日(日)

午前9:00～午後5:00 月曜休館(12月2日、9日)

東御市文化会館 展示室

主催: 東御市文化会館

〒389-0515 長野県東御市常田505-1 TEL:0268-62-3700

後援: 東御市教育委員会、上田市、上田市教育委員会、信濃毎日新聞社、朝日新聞長野総局、毎日新聞長野支局、
読売新聞長野支局、中日新聞社、NHK長野放送局、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、
ABN長野朝日放送、週刊上田新聞社、週刊さくだいら、東信ジャーナル社、信州民報社、公益財団法人八十二文化財団



一目惚れ

春夏秋冬、単独で雷鳥を追い求める高橋広平。雷鳥との出会いは、会社員時代の登山のときで、一目惚れだったという。

死と隣り合わせの極限の世界にもかかわらず、真冬の高山に雷鳥の姿を探す。ここまで彼を突き動かすものはなんなのだろうか。高橋自身が「彼らへの想いが、この叶うことのない片思いが、私を吹雪荒れ狂う厳冬期の高山に登らせ、シャッターを切らせるのでしょう」と語る。高橋の作品からは、雷鳥に語りかける心のつぶやきが聞こえてくるようだ。そのつぶやきは、雷鳥写真家としての祈り、願いでもあるのだ。幼少期からミヤマシロチョウを追う花岡敏道もまた同じであろう。

雷鳥はいまや南北アルプスと新潟の火打山・焼山（頸城山系）のみにしか棲息していない。ミヤマシロチョウも、南アルプスと湯の丸高原でしかみられない。この現実をどのくらいの人が知っているのだろうか。ともに「絶滅」寸前なのだ。いうまでもないが、「絶滅」とは、「死」とはまったく違う。

彼らが生きる環境を狭めてしまったのは地球温暖化、つまり人間の活動がおおきな要因である。健気に生きる小さな命が日本から消えてしまうという事実を、私たちはどう受け止めればよいのだろうか。

本展は、このままではとりかえしのつかないことになるのだということを少しでも考える機会になればと思う。

高橋 広平Profile

1977年 北海道苫小牧市に生まれる

1998年 単身、長野県に移住

2006年 知人の誘いで登山を始める

2007年 雷鳥に出会い、一目惚れをし独学で写真を始める

2013年 第4回田淵行男賞岳人賞を受賞する

SSP 日本自然科学写真協会、入会

長野県自然保護レンジャー、参加開始

2015年 富士フィルムフォトサロン 東京主催企画展

【写真家たちの新しい物語】高橋広平写真展を開催する

2016年 初写真集「雷鳥 ～四季を纏う神の鳥～」限定発売・完売

ライチョウサポーター、参加開始

2017年 9年勤めていた山小屋を退職、写真家として独立する

環境イベントなどでパネラー・講師などとして活動開始

写真集「雷鳥～Messenger from God, who wearing scenery～」出版

現在 「雷鳥とその生態系」というテーマのもと、安曇野を拠点に活動中

尚、「Sunday's photo」の"Sunday"は、日頃呼称されている自身の字名に由来する。



ギャラリートーク

テーマ：雷鳥に一目惚れ

日時：12月8日（日曜日）

午後1時30分より



花岡敏道(旧姓清水)Profile

1957年 長野県東部町（現東御市）生まれ

1980年 東部町役場就職

2002年 北御牧オオルリシジミ保護活動参加

2010年 浅間山系ミヤマシロチョウの会設立

2017年 東御市役所定年退職

現在 東御市社会教育指導員（祢津地区公民館長）

所属 日本チョウ類保全協会、松本むしの会

北御牧のオオルリシジミを守る会

浅間山系ミヤマシロチョウの会



高橋広平写真展

神の鳥・雷鳥のいま

令和元年 11月30日（土）～12月15日（日）

午前9:00～午後5:00 月曜休館（12月2日、9日）

東御市文化会館 展示室

入場無料

主催：東御市文化会館 〒389-0515 長野県東御市常田505-1 TEL:0268-62-3700

後援：東御市教育委員会、上田市、上田市教育委員会、信濃毎日新聞社、朝日新聞長野総局、毎日新聞長野支局、読売新聞長野支局、中日新聞社、NHK長野放送局、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、ABN長野朝日放送、週刊上田新聞社、週刊さくいだら、東信ジャーナル社、信州民報社、公益財団法人八十二文化財団

